

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①普通科と総合ビジネス科の併置の特性をいかした教育活動を検討し、幅広い学びの実現を図る。</p> <p>②生徒の学ぶ意欲を引き出し確かな学力を育みながら、課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力などを育む教育課程を作成する。</p>	<p>①普通科と総合ビジネス科の併置の特性をより活かした教育課程の検討とその実現の方策・規準の検討を進める。</p> <p>②ICT活用、DX人材育成推進、シチズンシップ教育等の指定事業を活用し、一人一台端末を活かした授業改善と評価と指導の一体化の一層の推進を図る。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、教育課程・規準の検討と地域の教育資源の活用を推進する。</p> <p>②一人一台端末ICT機器を活用し協働して課題を解決する授業実践や評価と指導の一体化を推進することを目的とした研修会を実施する。</p> <p>②DX人材の育成、シチズンシップ教育等の事業を活用した地域連携を推進する。</p> <p>②進路支援Gや各学年と連携し探究活動を推進する。</p>	<p>①教育課程の改善やその実現の方策・規準の改善ができたか。学校間連携や地域連携、企業との取組の生徒の参加率、参加生徒の満足度はどうだったか。</p> <p>②ICT機器を活用した授業実践、評価と指導の一体化を推進する研修会を実施できたか。授業改善に効果があったか。</p> <p>②探究活動の推進についての生徒の達成感はどうだったか。</p>	<p>①普通科と総合ビジネス科の併置の特性を活かした、教育課程と規準の改善を推進した。「総合的な探究の時間」と課題研究の学習成果発表会を実施した。デュアルシステムの拡充で企業との取組の生徒の参加率を向上することができた。</p> <p>②ICT機器と新ソフトの利活用に関する研修会を実施し、教職員の授業技術を向上することができた。</p> <p>②DX金融DAY、緑ヶ丘小学校や林中学校等への本校生徒による金融教室等を実施し、地域連携を推進した。</p> <p>②「総合的な探究の時間」や課題研究を中心とした生徒の探究活動は意欲的に向上され、生徒の達成感も高まった。</p>	<p>①本校の特性を活かした、進路実現につながる教育課程と規準をより一層改善する。学校間連携や地域連携、企業との取組をより一層強化することにより、地域の教育資源の一層の活用を推進する。</p> <p>②ICT機器とソフトウェアのさらなる利活用による授業実践展開をより一層推進する。</p> <p>②DX金融DAY、小中学校での金融教室、シチズンシップ、会計教育における中学校支援について継続する。</p> <p>②探究活動のさらなる充実を推進する。</p> <p>②DXハイスクールの教育計画において、生成AI等、最新のコンテンツを踏まえた学びの場を設定する。</p>	<p>DXハイスクールの導入によって企業と連携することで話を聞き、指導を受ける体験をしていることはとても貴重な体験であり、その経験が今後の進路に役立つ。</p> <p>普通科も総合ビジネス科と一緒に勉強しているので、お互い良い刺激となり相乗効果になるので今後も定着させてほしい。</p> <p>生徒に良い体験と経験ができるようお願いしたい。</p>	<p>①学習成果発表会において両科の取り組みがお互いのよい刺激となった。</p> <p>①DXハイスクール・SAH、シチズンシップを通じ、参加生徒の自己有用観を醸成するとともに小・中学校支援を実現することができた。企業連携や地域連携を通じて、より効果的な取組とすることが課題である。</p> <p>②生成AIを活用した実装的な外部講師による講演を多く実施した。進化のスピードに追いつくような仕掛けが必要である。</p>	<p>①DXハイスクール、デュアルシステム等、継続事業の展開を軸として、行事・実習等により多くの生徒が関わることを指標とし、学校全体として教育課程と接続した展開を進め、地域と連携した教育活動を展開するためにSTEAM教育的な視点を持って諸活動を推進する。</p> <p>②各種懇話会等を通じ、新しい技術を取り入れるために産学官連携による情報・スキルアップデートを常に行う。</p> <p>②教育目標を踏まえた教科横断的な視点による教育課程の見直しを進める。指導と評価のあり方について、さらに研修を推進して授業改善を推進する。</p> <p>②ICT機器の利活用による授業実践の共有で、授業改善を目的とした組織的な研修会を推進する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①社会の一員として行動するための規範意識や自己指導能力を高めるとともに、社会貢献に対する意識を育む。</p> <p>①自己肯定感を醸成するとともに、活動を通して主体的・協働に行動できる人材を育成する。</p> <p>②生徒一人ひとりの状況に応じた相談体制を強化するとともに、活動を通して主体的に行動できる人材を育成する。</p> <p>③安心安全な学校環境の整備を行う。</p>	<p>①学校行事や委員会活動等の企画運営を生徒主体で取り組めるようにする。</p> <p>①部活動の継続率を上げる。</p> <p>①共感的な人間関係の構築を通じ、社会的責任の理解を踏まえた判断力、行動力、想像力を育成する。</p> <p>②教育相談体制を検証し、多様な生徒・保護者等に対応できる体制づくりを行う。</p> <p>③学校が安全安心な場となる環境整備を行う。</p>	<p>①生徒会本部役員がリーダー性を発揮し行事等を主体的に運営し、コミュニケーション力や自己有用感を高められるように支援する。</p> <p>①各部の活動状況を生徒会新聞等で紹介する等、個々の活動が全体に伝わるようにする。</p> <p>②迅速さを心掛け多職種連携、生徒・保護者等との意思疎通により個別柔軟な対応を行う。</p> <p>②かながわサポートドック等を活用し課題の早期発見・解決を目指す。</p> <p>③DX事業等を通じて情報リテラシーを高める。</p>	<p>①各行事アンケート「運営に携わったか」の項目で80%以上の生徒が肯定的な回答をしたか。</p> <p>①部活動の加入率が上がったか。継続率が80%を超えたか。</p> <p>②生徒・保護者等の視点で、課題をより適切に解決するための必要な改善が見られたか。</p> <p>②危険個所に対して改善を行ったか。ヘルメットインフルエンサー事業の効果が見られたか。</p> <p>③DXアンケートにより情報リテラシーが高まったか。</p>	<p>①行事後に生徒アンケートを実施し、主体的に取り組めたと回答した生徒は、体育祭で97.9%、文化祭では78.3%であった。</p> <p>①部活動の加入率は、70.1%(運動部47.5%、文化部52.5%)であった。1年生を対象に実施した継続率は88%であった。</p> <p>②生徒指導提要进行を踏まえ、教育相談体制組織を活性化し、かながわサポートドックや定期的な情報共有会などを通じ、迅速かつ充実した生徒指導の運用に心がけた結果、リアクティブな生徒指導の在り方に変化が見られた事例が増えた。</p> <p>②交通安全に関する各種事業において、定期的な交通安全対策を行った。</p> <p>③情報リテラシーの啓発講座等については、1年次のみの実施から全学年個別に講座実施を実現し、情報リテラシーに関する意識が高まった。</p>	<p>①体育祭も文化祭も生徒の満足度は95%以上であった。今後も生徒主体で行事に取り組めるように、次年度に向けて検討していく。</p> <p>①部活動を辞めた理由としては、「勉強時間の確保」「アルバイト」が多かった。部活動に限らず、学習面以外で学校生活の思い出が残るような企画を生徒と一緒に考えたい。</p> <p>②引き続き時代の要請に対して合理的な自己指導能力あり方を見据え、すべての教育活動において必要な生徒指導が行われるように方向づけていく。</p> <p>②交通安全については、引き続き定期的な交通安全対策を推進するとともに、道路交通法改正に向けた啓発を行う。</p> <p>③情報リテラシーについては技術の進歩に伴った新しい情報リテラシー教育を実施する。</p>	<p>今後も生徒に対してより効果的な指導・支援をお願いしたい。</p> <p>学校行事も活発に行われており、成果を出している部活も多く、今後も期待している。</p> <p>また、教育相談についてはより一層のきめ細かい指導をお願いしたい。</p> <p>ヘルメットインフルエンサー事業のさらなる活性化を図ってほしい。</p>	<p>①生徒主体で行事の運営を行うことができた。行事後のアンケートを分析して、次年度より良いものができるようにしていきたい。</p> <p>①部活動数は、運動部、文化部合わせて38部活と多く、様々な場面で活躍している。入部した生徒は概ね活動を継続しているが、学業と両立できずに辞めてしまう生徒もいる。</p> <p>②多様な生徒に対し、丁寧な生徒指導を推進した結果、学校を安全安心な学ぶの場として捉えている生徒が増えている一方で、消極的な生徒指導に時間がかかっている。</p> <p>③交通安全法令改正対応事故防止、情報リテラシーの向上が課題である。</p>	<p>①次年度は、必要に応じて委員会活動等を増やし、全校生徒が安全で安心して過ごせる学校を生徒と一緒に作っていききたい。</p> <p>①生徒の学校生活を充実させる一助となるように、部活動の加入率の向上を目指して、年度当初の部活動紹介を充実したものにしていきたい。また、ミスマッチを防ぐため、仮入部期間を長めに取る等を検討していく。</p> <p>②生徒自己指導能力を育むためにプロアクティブな生徒指導を推進し、学校の諸活動を生徒が主体的に取り組めるような意識を醸成する。</p> <p>②交通安全については法令改正への対応を含めた具体的な学びの場面を設け、朝の声掛けや安全点検について新たに実施する。</p> <p>③情報リテラシーについては技術の進歩に伴った新しい情報リテラシー教育を実施する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①体系的なキャリア教育により、早期から将来を展望した自己理解、キャリア学習を深めさせる。 ②社会の一員として参画し貢献する意識を高める。	①キャリア教育を計画的に実施し、自己理解を深め進路意識の向上を図る。 ②チームとして探究活動を支援し、支援することで探究学習の充実を図る。 ③自己の適性を理解した職種選択、企業選択をサポートし、ミスマッチを起こさず希望者全員の内定を目指す。	①進路ガイダンスを適切な時期に実施する。事前事後のアンケート結果を精査する。 ②探究活動を通して上級学校調べ、情報共有を深める。外部資源も活用し、探究活動の充実を目指す。企業リサーチに取り組み、早期から受験方法について確認させていく。 ③授業や面談等の中で、ビジネスマナーを指導する。	①進路ガイダンスを経て、生徒の進路に対する意識が高まったか。 ②生徒の上級学校や企業理解が深まったか。卒業時点での進路未定者の数が全体の5%以下とできたか。 ③様々な場面で生徒のマナー、言葉遣いが向上するなど、進路を意識した行動がとれたか。	①各科ごとの学期1回の進路ガイダンスを経て、職業や将来の自己のイメージを持つ機会が持てた。 ②上級学校について探究活動を通して学部学科理解が深まった。 ③卒業時点での進路未定者の数が全体の5%未満を達成できた。 ④探究学習の成果として、クラス内発表、および学年内発表において活発なプレゼンテーション活動が見られた。 ⑤授業のみならず様々な場面で進路を意識した行動をとる生徒が多く見られた。	①入試の方法や日程、進学費用、奨学金等について情報をしっかり生徒、保護者に周知徹底する。 ②増加する推薦入試(総合型選抜)対策として、ガイダンスの内容、次期を再検討する。 ③就職指導においてハローワークや外部機関との連携を深め、未内定で卒業する生徒0を目指す。 ④探究学習への外部機関活用を引き続き継続してノウハウを蓄積していく。 ⑤一人一人の進路希望を達成できるきめ細かい面談、支援方法を構築していく。	生徒の進路実現に向けて、今後も外部人材を活用してほしい。 中学生は総合ビジネス科にとっても興味を持っており、普通科にとっても併置校であることが良さであり武器にもなってくるのでその特色を強みにしてさらに発展していくことを期待する。	①生徒対象推薦説明会の時期を早め、入試関連情報の徹底に取り組んだ。入試に関わる書類手続き等の処理に齟齬がないよう担任業務のサポート体制を整えた。 ②推薦入試に向けた生徒支援として、外部機関を活用し特別講座等を展開した。 ③探究学習教材として効果的なデジタル教材を導入し、教員の業務負担を軽減し探究学習の内容を深めることができた。	①複雑化する入試情報を精選し、適切な時期に生徒保護者に伝えられるよう情報収集する。 ②生徒各々の進路希望達成のため、ガイダンスの充実、卒業生講話の継続、企業見学会、企業人講話、上級学校見学・体験授業ガイダンス等を推進する。 ③学習環境の充実、一般・推薦入試を見据えた模試の実施、受験教材整備、学習室の整備、情報発信の充実をより推進する。 ④推薦入試対策として需要が高い小論文対策に外部講師を活用し、校内資源にとどまらず効果的なツールを開拓する。 ⑤探究学習推進にむけ教員対象研修、外部資源開拓を進める。
4	地域等との協働	①地域に開かれ、地域と共にある学校を実現する。 ②学校運営協会(地域連携部会)の意見等を活用し、実現可能な取組についてスピード感をもって実践するとともに、地域貢献に資する活動を充実させる。	①学校説明会や、両科と連携した生徒を巻き込んだ地域貢献活動を通じて、地域貢献活動を更に深度化し、生徒募集につなげる。 ②継続してDX事業やデュアルシステムとも連携し、地域住民も巻き込んだ活動を充実させる。	①学校説明会、中学校訪問や地域貢献活動等を通じて、中学生に選ばれる学校になるように内容を精選する。また生徒のアイデアも積極的に取り入れていく。 ②充実した設備を使い、両科と連携し生徒のアイデアも取り入れ、新しい地域貢献活動を立ち上げる。	①学校説明会等の参加者が全年度比110%以上、入試倍率は普通科1.2以上、総合ビジネス科1.1以上になったか。 ②デュアルシステムの取組を拡大・充実できたか。両科の生徒が連携した新しい地域貢献活動を企画し、実践できたか。	①学校説明会の参加者は前年並みであった(24年度1070、25年度1047)志願者倍率は普通科1.09、総合ビジネス科1.29であった。 ②デュアルシステムの取組については、18事業所で総合ビジネス科3年生約150名(100%)の参加を達成した。また、DX金融DAYとして、地域の小中学生及び住民を主な対象とした学校の教育資源を活用した地域貢献活動を予定を含めて4回企画・実施した。	①引き続き、HPの充実や、SNS等中学生・保護者が触れやすいメディアを使った広報活動を展開していく。 ②デュアルシステムについては今後もより充実した探究活動とする。実施の方法・対象、事業所の受け入れの在り方等も懇話会等を通じて継続可能な取組みとしていく。DX金融DAYについてもその効果を検証し、より合理的なあり方を検討し、実現したい。 ③厚木市と連携した会計教育を推進していく。	中学生や外部に向けて生徒の活動だけでなく、PTAの活動や同窓会にも紐づけできるようにさらにHPを充実させてほしい。	①学校説明会や広報活動に力を入れた結果、総合ビジネス科の志願倍率は前年より高かった。引き続き、HPの更新頻度を上げ、中学生が必要とする情報を適時に発信する。 ②今年度実施した各事業は大きな成果を収めている。時代の変化に即応しながらより深く、より効果的な教育活動として改善していく。	①学校全体に働きかけ、本校の日々の教育活動や部活動を中心に、HPの更新頻度を上げていく。 ②デュアルシステムについては担当教員の業務を改善し、課題発見・解決に至るプロセスにおいて外部人材を効果的に活用できるように組織的に取り組むとともに、懇話会を軸に外部人材相互の繋がりを教育活動に活用できる仕組みづくりを行う。
5	学校管理 学校運営	①生徒が安全安心で快適に過ごせる教育環境の整備を進める。また、時代の要請に応じた教育のICT環境の整備を推進する。 ②防災課題に対する理解を深め、防災意識を高める。 ③不祥事防止を徹底し、信頼に根ざした学校づくりを推進する。	①生徒が安全・安心に過ごせるよう教育環境の整備を促進する。 ①事故防止を念頭に置き、ICT環境を整備することと、全教職員・全校生徒への利用方法の啓発を図る ②他グループや事務と連携し、生徒が施設を十分に活用できるように管理・整備する。 ③地域自治会と共働し、防災体制の確立と整備に努める。 ④不祥事防止研修により教職員の実践的指導力を向上させる。	①生徒の清掃活動を充実させつつ、施設・設備の整備を進め安全な環境づくりを目指す。 ①年度当初の啓発活動に加え、必要に応じて注意喚起を図る。環境整備については教育局と連携し、授業や生徒の活動が円滑になるように整備を更に進める。 ②他グループや事務と連携し、校舎の活用方法について確認し学習環境を整える。 ③実効力のある防災教育等を行い、生徒の判断力・行動力を高める。 ④啓発活動や研修会等を通じて、意識の醸成を図る。	①生徒が校内美化活動に参加できたか。施設の改善・教育環境の整備ができたか。 ①円滑なICT環境の構築が出来たか。 ①他グループや事務と連携し、校舎の活用や安全な環境づくりができたか。 ②災害への対応力を高める防災教育、防災訓練等ができたか。 ③時宜を得た啓発活動や研修会等により、不祥事を防止できたか。	①施設・設備の老朽箇所を把握し、事務室と連携して修繕作業を行った。教室の床タイルの張替など、生徒が安全に過ごすことができるように環境改善に取り組んでいる。 また、生徒も美化活動に協力して取り組み、誰もが快適に過ごすことができる環境整備を目指していく。 ①ICT環境については、特に問題なく、授業にも大きな支障となる故障はなかった。 ②地域自治会と協働し、防災委員と共に王子地区避難所開設訓練に参加することができた。まずは防災委員から始め、最終的には全校生徒に防災への対策をしっかり確認させ、今後も防災体制の強化に努めていく。 ③不祥事防止研修の実施により、職員の意識が向上し事故・不祥事を防止した。	①学期末の大掃除で重点的に清掃する箇所を示し、統一して校内を清掃することができた。 日々の清掃を大切にし、快適に過ごすことができるように指導していく。 ①引き続きICT環境の整備に尽力していく。 ②避難所開設訓練や校内での防災訓練を通して、生徒が災害への備えを行うことができるように今後も指導していく。災害想定への理解に差が見られたため、事前指導のさらなる充実を目指していく。 ③より効果的な事故・不祥事防止研修の継続的な実施により、職員が常に事故・不祥事を防止する意識の醸成や信頼される学校づくりをめざす。また風通しの良い職場づくりにより、働き方改革を推進する。	防災教育の充実により、地域の避難所設置訓練にも生徒が参加し有事に向けてよい訓練になった。さらに地域と学校が協力して検討をしていく必要がある。	①生徒は積極的に清掃活動に取り組み、施設を大切に使用している。 ①引き続き安定したICT環境の整備に尽力していく。 ②今年度は生徒も避難所開設訓練に参加し、防災への意識を高めることができた。防災委員という一部の生徒のみの活動だったため、より多くの生徒が参加できるように計画する必要がある。 ③不祥事防止研修の実施により、職員の意識が向上し事故・不祥事を防止した。	①事務室との連絡を密にとり、老朽化した施設を順次修繕する。商業教育棟も少しずつ傷などが目立ってきているので、その清掃にも力を入れていく。 ①学習支援グループ、またDX事業とも連携し、恵まれたICT環境を教育活動として生徒に還元できるようにしていく。 ②避難所開設訓練は一部の職員と生徒のみの活動になってしまったため、より多くの生徒が参加できる防災実践教育を今後計画し、実行していく。 ③より効果的な事故・不祥事防止研修の継続的な実施により、職員が常に事故・不祥事を防止する意識の醸成や信頼される学校づくりをめざす。また風通しの良い職場づくりにより、働き方改革を推進する。

